



光

内倉ひとみ・船井美佐・榮水亜樹
2017.7.1 sat - 22 sat at MA2 Gallery



内倉ひとみ・船井美佐・榮水亜樹

2017.7.1 sat - 22 sat

ギャラリーを設計する際に自然光の入る空間にしたいとおもいから、MA2Galleryには大きな開口部があります。ギャラリーも光によって様々に変化する作品の表情を体感できる場にしたかったからです。

それは自宅に飾ってある作品が、朝はみずみずしい光を受け凍とし、日中は柔らかさをそして夕暮れ時の薄暗い中では静かに佇んでいます。作品は光とともに変容しているように見え、自分と時間を一緒に過ごしているようで身近に感じられました。

今回は、MA2Gallery空間の特徴でもある光を受けることでさらに作品鑑賞が深まる女性3人の作品を展示いたします。

1993年のアトリエでの偶然の光との出会い、そして旅先のアンコールワット遺跡で見た光との体験から、一貫して光をテーマに作品を制作してきた内倉ひとみ。私たちの体内にも光は宿っているのではなからうか、そしてその光の粒が魂の正体。つまり、光をみつめることは私たち自身の心の奥をみつめる事になるのではないかという作家。強く光りを受け、眩く光りを放射させながら、柔らかな陰影もつくる、白い紙や金属、レンズの無数の円形の連なりからなる作品たち。暗がりでも残る光を吸収して静かに発する数々の円は、まるで命を宿しているかのようです。

船井美佐は「楽園」をテーマに絵画表現を探究。どこにもなく誰も見たことが無いはずなのに、誰もが知っている風景、楽園。その中の世界に、鑑賞者も現実の風景も入り込んでひとつになるような作品は、楽しさと新鮮な視点を提供しイマジネーションを豊かにしてくれます。鏡を使った作品、子供たちが遊ぶ作品、野外での展示、多くの人が行き交う公共の場所でのインスタレーションなど、多様な展開でその場所の空間、歴史、人々との関わりを取り込んだ作品を多く手掛けています。

榮水亜樹は、白やシルバーを基調にした絵具を使い、描いては消した描くという緊張した行為の繰り返しで、作品が光を湛える絵画を制作。

静謐で無垢な印象の作品は、細やかな留まる点、動きのある細い線、それを何層にも重ね集積させて出来上がっています。作品から発する光、外光を受けて変化する表面、その揺らぎのある絵を前に、何を見ているのか問いかけられます。見えているものから見ようとする鑑賞者を絵画の中へと誘います。

3人の女性アーティスト作品が初夏の光を受けた展覧会をどうぞ高覧ください。

内倉ひとみ Hitomi Uchikura

1956年生。パリを拠点に海外各地で展覧会多数。日本では原美術館の「原美術館35周年記念展」、ハラミュージアムアーク「宇宙への眼差し」での展示が新しい。特にLumièreシリーズは個人宅や病院などにも多く設置されている。

船井美佐 Misa Funai

1974年生。「ワンダフルワールド」東京都現代美術館、個展「楽園/境界〜どこにもない場所〜」奈義町現代美術館、「発信//板橋//2011」板橋区立美術館、など展覧会多数。アートプロジェクトやパブリックアートも数多く手がける。7月25日より国際芸術センター青森で個展開催。

榮水亜樹 Aki Eimizu

1981年生。「VOCA展」上野森美術館、「NEW VISION SAITAMA4 - 静観するイメージ-」埼玉県立近代美術館、「Art in an Office - 印象派、近代日本画から現代絵画まで」豊田市美術館などで展示。1年間、ひと月に1点作品を制作する「12ヶ月の通過儀礼」を敢行。

M A 2 Gallery

12:00 - 19:00 日・月休み

www.ma2gallery.com

渋谷区恵比寿 3-3-8

Tel.03-3444-1133